

課題 5 竹を利用したシカ害対策について

(27年度新規課題)

試験開発目的

シカ被害対策は、低コスト再造林体系の確立に喫緊の課題となっており、当センターにおいても、頂芽を保護するシカ食害防止クリップ（ドイツ製）の検証を実施していますが、側枝の被害やクリップによるストレスの可能性等課題もあるところです。

その対応策として、地域から有効利用が期待され、かつ軽量で有機物であることから撤去が不要な「竹」を利用した、苗木保護柵がシカ被害に有効であるか検証します。

試験地

高知県安芸郡北川村栃谷山国有林 2079 林班い小班
(安芸森林管理署管内)

試験内容

囲い柵は、モウソウチク・メダケを利用して、1.5m程度の竹の幹部・枝付き部を4～6本組み合わせた柵を植栽木の周囲に設置します。

併せて、剥皮防止に効果があり生分解するリンロンテープを、囲い柵に巻き付けるなどした、様々なタイプの食害防止柵の内、シカ被害に有効なタイプを検証します。

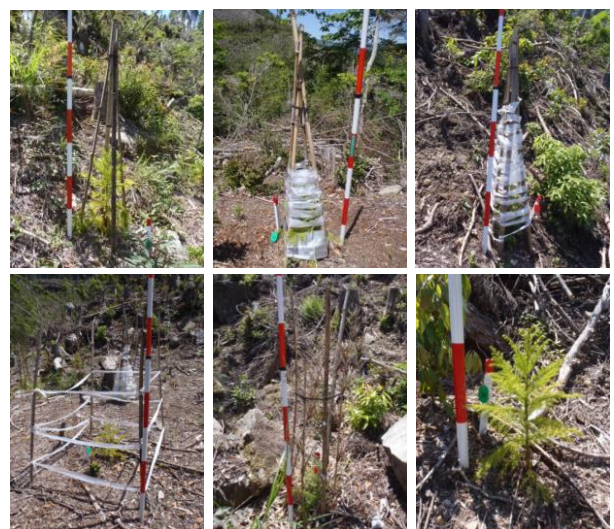
また、検証結果を踏まえ、新たな試験地を設定します。



↑ 竹の各位別 ↓ リンロンテープ



試験地写真



タイプ別設置写真

今後の予定

- ・ 被害調査（毎月1回程度）と成長調査（年2回）を実施します。
- ・ H27年度の検証を踏まえ、H27年度末にシカ被害に有効なタイプを設置した試験地を設定します。